

2017年度の鉄鋼需要見通し

2016年12月16日
一般社団法人 日本鉄鋼連盟

2017年度の日本経済は、緩やかながら回復軌道を辿る見通し

- 2016年度の日本経済は、雇用・所得環境は良好な状態を保ったものの、消費者の節約志向から個人消費は弱さがみられた。企業活動は、国内では熊本地震等の自然災害、急激な為替変動、海外では、中国の成長鈍化に加え、英国のEU離脱、米国の大統領交代など、世界経済の先行き不透明感の高まりもあり、設備投資は力強さを欠いた。
- 2017年度は、引続き雇用・所得環境の改善が見込まれ、個人消費の持ち直しが期待されるほか、企業活動では業績改善から慎重な投資マインドも和らぎ、遅れていた建築案件も、東京五輪関連をはじめ加速が見込まれ、公共投資も政策効果などが下支えし底堅いと見られる。外需は不透明要因を抱えながらも、世界経済の回復から緩やかに持ち直していくと思われる。

2017年度の粗鋼生産は2016年度を上回る見通し

- 2016年度の鉄鋼内需は、建設は土木や住宅が回復基調を辿った。製造業は、設備投資など機械関連は総じて力強さを欠いたものの、熊本地震等による生産停止の影響で年央まで低迷した自動車は、挽回生産や新型車効果等から下期に持ち直しが見られた。外需は、先進国経済が緩やかな成長を持続し、ASEAN等の新興国も総じて緩やかな回復傾向に転じたことから、16暦年の世界の鋼材需要は僅かながら前年を上回ったとみられる。こうしたなか、在庫調整の進展もあり、2016年度の粗鋼生産は1億550万トン程度と、3年ぶりに前年実績を上回る見込みである。
- 2017年度の鉄鋼内需は、建設は、東京五輪関連をはじめ都市再開発・交通インフラ整備の加速による建設投資の拡大が見込まれる一方、人手不足による制約が懸念される。製造業は為替要因に左右されるため、企業の投資マインドは保守的になる可能性もあるが、省力化・省エネ化投資は堅調が見込め、総じて前年を上回ると見られる。
- 海外鉄鋼市場は、中国の輸出増による世界的な需給緩和、通商問題の頻発が依然大きく影を落としており、鉄鋼輸出は、世界経済が緩やかな回復傾向を辿るものの、2016年度並みと想定される。輸入は、2016年度以降水準が上昇しており、今後も高水準が継続すると想定される。
- この結果、2017年度の粗鋼生産は2016年度を上回る見通しである。変動要因としては、世界的な政治リスク、急激な為替変動による外需の下振れリスク、原材料価格の上昇、人手不足による工事案件等の遅れ等が想定される一方、輸入材の圧力にも留意が必要である。

以 上

